

Syllabus ID	syl-122022
Subject ID	Sub-122000130
更新履歴	20120327 新規
授業科目名	文学特論 Specially Literature
担当教員名	中園孝信
対象クラス	4M 4C
単位数	2履修単位
必修/選択	必修
開講時期	通年
授業区分	人文・語学
授業形態	講義
実施場所	各教室

授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)

「現代文学名作選」を使って文学教材を積極的に活用し文学作品に触れ精神の成長、情操の育成を図り、技術者の社会的役割と責任を自覚する態度を学ぶ。「大学生のための日本語表現実践ノート」を使って読む力・考える力を中心に全般的な日本語の力を高め、豊かな国際感覚とコミュニケーション能力を身につける。

準備学習(この授業を受講するときに前提となる知識)

3年間学んだ国語の基礎知識

	Weight	目標	説明
学習・教育目標		A	工学倫理の自覚と多面的考察力の養成
		B	社会要請に応えられる工学基礎学力の養成
		C	工学専門知識の創造的活用能力の養成
	◎	D	国際的な受信・発信能力の養成
		E	産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力の養成
学習・教育目標の達成度検査	1.該当する学習・教育目標についての達成度検査を、年度末の目標達成度試験をもって行う。 2.プログラム教科目の修得と、目標達成度試験の合格をもって当該する学習・教育目標の達成とする。 3.目標達成度試験の実施要領は別に定める。		

授業目標

1 文学作品を読み通すことで読書の方法を習得し、読書力をつける。2 日本語表現に関する基礎的な事柄を身につけ、日本語表現能力をつける。3 ワードプロソフトでの文書作成で適切な漢字選択できる語彙を操る能力をつける。4 「話すこと」は他者とのコミュニケーションの方法であることを学び、耳で聞き取ったことをわかりやすく話す能力をつける。5 実験や調査等で得たデータを根拠にして自分の意見を述べる時、相手にわかりやすい表現力をつける。

授業計画 (プログラム授業は原則としてプログラム教員が自由に参観できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。)

回	メインテーマ	サブテーマ	参観
第1回	前期オリエンテーション	教育目標、授業概要、目標、スケジュール、シラバス、評価方法と基準等の説明。導入「坊っちゃん」夏目漱石	
第2回		「大学生のための日本語表現実践ノート」第1課ことばと表現を知ろう	
第3回		「最後の一句」森 鷗外	
第4回		「大学生のための日本語表現実践ノート」第1課ことばと表現を知ろう	
第5回		「鼻」芥川龍之介	
第6回		「大学生のための日本語表現実践ノート」第1課ことばと表現を知ろう	
第7回		「清兵衛と瓢箪」志賀直哉	
第8回	前期中間試験		×
第9回		「よだかの星」宮沢賢治	
第10回		「大学生のための日本語表現実践ノート」第2課話してみよう	
第11回		「山椒魚」井伏鱒二	
第12回		「大学生のための日本語表現実践ノート」第2課話してみよう	
第13回		「セメント樽の中の手紙」葉山嘉樹	
第14回		「大学生のための日本語表現実践ノート」第3課敬語・敬意表現を使おう	

第 15 回		「路傍の石」 山本有三	
第 16 回		「大学生のための日本語表現実践ノート」 第 3 課敬語・敬意表現を使おう	
第 17 回	前期末試験		×
第 18 回	後期リエンション	授業概要、スケジュール、シラバス等の説明。「黄金風景」 太宰 治	
第 19 回		「名人伝」 中島 敦	
第 20 回		「大学生のための日本語表現実践ノート」 第 4 課書いてみよう	
第 21 回		「潮騒」 三島由紀夫	
第 22 回		「大学生のための日本語表現実践ノート」 第 4 課書いてみよう	
第 23 回		「赤い繭」 阿部公房	
第 24 回		「大学生のための日本語表現実践ノート」 第 5 課分析と考察をしよう	
第 25 回	後期中間試験		×
第 26 回		「おきみやげ」 幸田 文	
第 27 回		「大学生のための日本語表現実践ノート」 第 5 課分析と考察をしよう	
第 28 回		「童謡」 吉行淳之介	
第 29 回		「大学生のための日本語表現実践ノート」 第 5 課分析と考察をしよう	
第 30 回		「途中下車」 宮本 輝	
第 31 回		「大学生のための日本語表現実践ノート」 第 6 課就職活動の準備をしよう	
第 32 回		「離さない」 川上弘美	
第 33 回		「大学生のための日本語表現実践ノート」 第 6 課就職活動の準備をしよう	
第 34 回	学年末試験		×

課題

オフィスアワー 月から金曜日の放課後

評価方法と基準

評価方法

定期試験を行って文章読解力、文章表現力をみる。「日本語実践ノート」の記入状況から語彙力をみる。「日本語実践ノート」の提出状況から課題への取組姿勢をみる。授業中の発表で話す能力、表現する能力をみる。

評価基準

定期試験の平均成績を 80%、「実践ノート」の提出 10%、授業への積極姿勢 10%

教科書等	「現代文学名作選」 明治書院 「大学生のための日本語表現実践ノート」 風間書房
先修科目	
関連サイトの URL	
授業アンケートへの対応	
備考	<ol style="list-style-type: none"> 1. 試験や課題レポート等は、JABEE、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。 2. 授業参観されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。